

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

2022.3
vol.47

こうち Kochi Normalization ノーマライゼーション

特

集

障害のある方の防災

その2

CONTENTS

特集「障害のある方の防災 その2」……………①～⑧

防災コラム「家族から考える防災」……………⑨

年間行事カレンダー&インフォメーション……………⑩

「ほんとうにあった障害者あるある4コマ漫画」……………⑪



“「障害者」は「高齢者」の先駆者である”

近い将来、必ず起こるであろう災害への対策として、
障害のある方の課題を知ることで、これからの防災課題を考える。



障害とは

障害者基本法では、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定められている。また、いわゆる「難病」についても、障害者総合支援法において、対象の疾病が順次拡大している。

障害のある方の防災課題

前号では、災害時に避難をあきらめている障害のある方が多く居ることをお伝えした。「周りに迷惑をかけたくない」「避難訓練に今まで参加したことがないから不安だ」「障害のことを理解してくれている人が居ないと対応が難しい」など、理由は様々だ。

一方、地域防災を支える住民の方々からは、「自分たちの地域に障害者が居るのか分からない」「障害者に対する知識がないため接し方が分からない」「地域の中で障害者支援を出来る人が少ない」などの声が聞かれた。

障害による課題の違い

前述のとおり、障害の中にはさまざまな理由により社会生活に制限を受ける方が居る。身体障害の中でも、視覚、聴覚、手足などの肢体、内臓機能など制限を受ける体の部位が様々であり、課題もそれぞれである。また、身体、知的、精神、難病など、すべての障害が重度から軽度までの幅が広い。障害等級の違いによっては、自身で出来ること、出来ないことに大きな差が出てくる。

高知市の障害者数

令和3年3月末時点の高知市において、身体・知的・精神の障害者手帳と難病医療の受給者証を所持している方は、合算して約7%である。しかし、障害や難病があっても、障害者手帳や受給者証をすべての人が申請、取得しているわけではない。そのため、少なくとも高知市内で約15人に1人以上は、何らかの障害または難病に関する課題を抱えていることになる。

防災課題の整理と対策

障害のある方の防災を考えるために、障害内容、制限を受ける可能性のあること、できること・できないことを知り、備えることが必要である。

次ページからは様々な障害のある方へのインタビューを掲載する。その内容には、高齢者、障害者はもちろん、妊娠中の方や乳幼児、病気で体力の衰えた方など、災害弱者と呼ばれる方々を救うためのヒントがあるだろう。これから大規模災害が予想される高知で「誰一人取り残さないために何ができるか」を考える。



Q 災害時に不安を感じていることを教えてください。

片岡氏：私は小眼球のため視力が0.01しかありません。家族が不在のことが多いため、まず避難所への移動に不安を感じています。特に水害・地震の際は、（自宅周辺の地形も変化している可能性があるため）単独での避難行動が難しくなります。

中島氏：私も視力は0.01しかなく、視野狭窄（視野の狭まる状態）と夜盲（夜見えづらい状態）があるのですが、単身ではないので、家族が近くに居れば手伝ってもらってなんとか避難ができると思います。しかし、（家族が）不在だった場合には困りますね。携帯電話が不通になったらどうしようもなくなるかもしれません。家族とも連絡が取れなくなりますし、災害情報も入りにくくなりますから。

片岡氏：避難後も不安があります。福祉避難所（一般の避難所では生活に支障をきたす方が過半数の避難所）は、発災後3日程度で開設することなので、まずは通常の避難所に行くことになると思います。その場合、はじめての場所なので、トイレなど生活全般の不安がありますし、支援をしてくれる方が居ないと、情報が得られるか分からない怖さがあります。

Q 視覚障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

中島氏：視覚障害者は、他の障害と比べても自分からコミュニケーションを取ることが難しいということです。目が見えない状態だとなかなか自分からあいさつもにくい。結果的に受け身になりがちの方が多いと思います。

片岡氏：災害時の避難や、避難所での生活も含めて、日頃から隣近所や町内会、民生委員さんなどとの関

片岡
義雄氏



わりを持つことが大事だと理解しています。ですが、なかなか自分たちではきっかけを作りにくい。そんな状態で、避難を諦めてしまっている人も少なからず居るのが現状です。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

中島氏：私は参加したことはないです。声もかかったことがない。自分の地域では実施していないのかな、と思っています。

片岡氏：私も今まで参加したことがないです。私たちも不安がありますが、地域の方々も不安があって声掛けしにくいのではないかと思います。そういった意味でも普段からのコミュニケーションは大事ですね。そういった訓練等への参加も、ひとつのきっかけになると思うので、声掛けをもらえれば参加したいと思っている人は多いのではないのでしょうか。

Q 視覚障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

片岡氏：これは防災に限った話ではないですが、視覚障害者への接し方や誘導の仕方などを理解していただけたらうれしいです。声掛けをしてくれる時は名前を言ってもらい、誘導・案内をしてくれる時は前を歩いてもらいたい、その時に案内してくれる人の肩もしくは腕に手を置かせてもらいたい、などです。視覚障害者の基本的なことを理解してくれている、というだけで安心することができます。

中島氏：視覚障害者本人の防災意識向上も必要です。家具の固定や寝室に障害物を極力置かないなど、命を守るための備えをする。意識を持つことですね。そうすれば地域住民とのつながりの重要性も気付けるのではないのでしょうか。

中島
正美氏



インタビュー

高知県聴覚障害者協会会長：竹島 春美 氏



竹島
春美氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

例えば雨音、雷の音などが聞こえないので、水害などは特に避難をするタイミングが遅れる可能性があると感じています。東日本大震災の時も聴覚障害の方が被害を多く受けました。健常者と比べて2倍以上の方が亡くなったと聞いています。これは、避難しなければならないことが伝えられなかったことが影響しています。避難情報が入ってくるかどうか、受け取れるかどうか、不安がありますね。

Q 聴覚障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

特に聴覚障害は、見た目にはわかりづらいという特性があります。ろう者が複数名居れば、手話で会話をしている様子などから周りに気付いてもらえると思いますが、一人でいると見た目からは分かりません。そのため、避難所での生活も周りから理解されづらい。また、音声での案内・放送が聞こえないため、支援を受けるための情報が不足する可能性が高いですね。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

参加したことはないですね。地域では実施しているのかもしれませんが、声をかけられたことがないです。

Q 声かけがあれば訓練には参加しますか？

はい、参加したいと思います。もちろん最初は不安ですが、実際に訓練に参加することで、どのような対応をしてもらえるのか分かりますし、自分に必要な備えについても考えることができると思います。

Q 聴覚障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

様々な面で、音声案内だけでなく見える化、可視化してもらいたいです。避難所などでは、近くの人が聞こえない人に気付いたら、避難所のスタッフの方などに知らせてもらいたいです。聴覚障害の方や聴覚障害に理解のある方向けにリストバンドを持ってもらっているので、目印にしてもらいたい。特別なことではなく、口の形をはっきり、ゆっくり話をしてもらうなど、些細なことでも安心感を得られます。また手話にも慣れてもらうことも、ろう者理解につながります。高知市内にも手話サークルが複数あるので、ぜひ多くの方に参加してもらいたいです。

また、ろう者自身も地域で普段からコミュニケーションを取ることが大事です。民生委員さんはもちろん、隣近所の方にも顔を覚えてもらう、知ってもらうことで、災害時の助け合いにつながると思います。



Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

大地震が起きた時に津波避難タワーへ避難してきた際に、普段は入り口が施錠されていると思うが、開錠してもらえるのか不安があります。自分も車いす利用者だが、津波避難タワーや学校などの避難所は自力で上の階に上がれるのかどうか。あと、避難した先で困るのはやっぱりトイレです。最近は小学校などにも多目的トイレを設置しているが、オストメイト対応トイレはまだまだ少ないですね。

Q 身体障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

避難時については、状況によりますが避難所へ向かうまでに手助けが必要な可能性があると思います。避難所へ着いてからも、車いすの方は床で寝るのは難しい人もいますので、ある程度高さのあるベッドが必要です。段ボールベッドが普及しているが、人によっては起き上がれないかもしれない。トイレについてもすべての身体障害の方が利用できるか分からない。そういった状況の中、避難自体をためらう障害者も居ます。そういった状況から、出来る限り福祉避難所は発災から3日以内に開設してもらいたいです。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

何度か参加したことはありますが、直近の3回ぐらいいは、他の予定や行事とちょうど重なって行けなかったですね。



中屋
圭二氏

Q どうすれば訓練に参加しやすくなると思いますか？

私の場合は前もって大々的に広報をしてくれると調整できるので参加しやすくなりますね。私は地域組織の役員もやっているので、訓練の情報が入ってきますが、会員からは声がかからない、訓練をやっているのか分からないという話も聞きます。出来れば行政主導で、声掛けをしてもらうといいのかなと思います。

Q 身体障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

支援者の方には、自分たちの地区に住んでいる支援が必要な人を知ってもらうこと、これが一番必要だと思います。人それぞれ必要な支援が違いますから。

一方で、障害当事者も地域の情報や動向に興味を持つことが必要です。防災関係なく、町内会等、地域の集まりに参加することも大事です。「障害があるからやってもらう」ではなく、地域で自分のできることを精いっぱいやった上で、「こういうことに困っているからお願いしたい」という話をしてほしい。障害があっても社会生活における責任を持つということ。受け身になるのではなく、家族以外で悩みを言える人を地域で作っておいてもらいたい。

「共助」という考え方が広まってきているが、今地域の支援者と障害者、お互いが身構えずにいると思う。コミュニケーションを取ってお互いが「慣れる」ことが必要だと感じています。

インタビュー

高知県知的障害者育成会理事長：秋友 英稔 氏
同理事：田中 正哉 氏

秋友 英稔氏



Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

知的障害の方は、日中の時間帯を就労施設やデイサービスなどで過ごしている方も多くおられます。また、近年「地域共生社会」が叫ばれる中で、施設から地域への移行が進み、グループホームなどで生活している方もおられます。それは、自宅以外で被災する可能性が高いということでもあります。知的障害のある方が生活される施設として考えていくと、発災時に利用者はもちろん、職員の安全が確保できるか不安があります。災害に対する備えを進めている施設がほとんどだと思いますが、避難生活が長期化すると、服薬を必要とする方の薬の確保や、環境変化が理解しにくい方は混乱をきたす可能性もあり、どのような状況でどのような対応が出来るのか、予測はしにくいのが実情です。また、生活するうえで必要な食事、入浴、排せつに加え、服薬の維持が問題となるでしょう。特に排せつや入浴などの衛生面については、避難が長期化すると感染症も心配です。

Q 知的障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

避難後の課題が多いと思います。施設やグループホームなどが緊急一時避難所、福祉避難所として指定されていることも珍しくありません。そのため、災害時には地域住民の方と一緒に避難生活を送ることが予想されます。その際に地域住民の方と知的障害の方を同時に対応することを迫られるため、事前の準備やシミュレーションをしておく必要があるでしょう。しかし、発災してみないと分からない、というのが正直なところです。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

施設として地域の防災会、防災夜回りや地域の会合などに積極的に参加し、避難訓練にも参加しています。また、施設で防災訓練や各種イベントを主催し、地域住民の方にも参加してもらい、利用者と触れ合ってもらおうことで、普段からのコミュニケーションを取っています。しかし、ここ2年ほどはコロナ禍で実施できていない行事が多いです。

Q 知的障害のある方の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

障害のある方が過ごす施設として考えるならば、地域の方々の理解があつてこそ、運営ができると思います。町内会費を払い、地域の活動を住民さんと一緒に担いながら、日常的に共助の体制を作っておくことが重要です。

また、今回の新型コロナウイルス感染拡大も災害といえるのかもしれませんが、人と人との関わり、顔と顔を合わせた活動が困難になっています。しかし、そういった活動こそが「ともに支え、助け合える」地域づくりにおいて大切であると実感しています。

田中 正哉氏



松尾
美絵氏



竹村
幸彦氏



Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

竹村氏：精神障害の方は身体的に問題ない方が多いので、避難はなんとかできるかもしれませんが、避難所での生活に不安があると思います。特に統合失調症などで重度の方は、環境の変化で病状が悪化することが予想されますし、多くの人が居る避難所で生活ができないのではないのでしょうか。

松尾氏：服薬している薬も病状によっていろいろと種類がありますから、確保できるか分からないですね。

Q 精神障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

竹村氏：避難所で迷惑をかけるかもしれないと思うと、私なら避難をせず、出来る限り薬を持って、車中泊をするかもしれませんね。ただ、避難生活が長期化すると厳しいです。

松尾氏：避難所での生活をするにあたっては、専門家の配置等をしていただけると助かります。家族と一緒に避難できればいいですが、状況によっては障害のある方一人で避難してくる可能性もあるわけですから。避難行動要支援者の名簿も1級からの登録ですが、2級の幅が広いから支援が必要な方が零れ落ちている可能性があります。また、精神障害の方が居る世帯は、障害のことを地域に伝えず、ひっそりと暮らしている方が多い。

竹村氏：精神障害の人は怖い、というイメージがある。状態の悪い人と生活していたら地域住民は寄ってこないし、家族も地域と関わることを避けてしまう。

松尾氏：以前よりは偏見等は少しマシになったかもしれませんが、障害への理解がないと地域生活で日常的なつながりを作るのは難しい。

竹村氏：障害のある本人はもちろんだが、家族の方が大変かもしれない。精神的に追い詰められていきます。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

松尾氏：参加したことはないですね。集合住宅とかだと情報が入ってこない。訓練をしているのかも分からないです。

竹村氏：私は大きな団地なので防災訓練をやっている。ただ、障害のある息子は今一人暮らしをしているので、参加していないかもしれない。

松尾氏：やはり地域との関わりが無いと、参加しづらくなると思います。

Q 精神障害者の防災を考える上で、必要だと思われることは何ですか？

竹村氏：家族もしっかり準備をしておくことですね。家族会の方に話を聞くと、非常持ち出し物に薬は必須、という方も多いです。

松尾氏：薬については、高齢者や持病をお持ちの方も同じだと思います。命をつなぐためにも必要です。また重要なのは、日常的な地域とのつながりを持って置くこと。そして障害についての理解をしてもらうこと。病気にもよりますが、状態に波があること、幻聴が聞こえることがあるなど、身近な方に理解してもらう必要があります。災害時のことを備えるにあたっては日常が大事だと思います。それが本人の安定にもつながるし、家族も地域とつながりが出来るようになる。そういった障害理解のための啓発をしていくことも重要だと考えています。

インタビュー

高知県難病団体連絡協議会理事長：竹島 和賀子 氏



竹島 和賀子氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

県内で言うと、難病指定を受けている方が約6,000人居ます。難病の種類も様々なので、それぞれに不安なことは違いますが、たとえば人工呼吸器を付けている方などは、停電時の電源確保に不安を持っている方が多いです。拠点病院はあるけれど、災害の時に機能するのかどうか分からない。あと、服薬をされている方は、薬がとても大事なので、やはりライフラインが止まると心配だという声が多いです。

Q 難病を抱える方は、どのような防災課題があると思いますか？

難病の種類や病状を考えると、すべて行政で対応するのは難しいと思います。災害時にすぐ救助がくることは出来ないでしょう。また、見た目では分かりにくい難病の方もいます。そして周りに言いたくない、知られたくないという方もいます。そのため、近所の方や地域の方が、支援の必要な方だと知らないことがあります。たとえ難病であることを地域の方が知ったとしても、何をすればいいのか分からない。

先日難病当事者と支援団体を対象に「災害への備えに関するアンケート」を実施したのですが、「災害が起きたときに避難をしない」と答えた方が多くいました。

その中で、「感染症の事一つ取り上げても避難所より自宅の方が安全だ」と考えている方もいました。また、「怖くて災害のことを考えたくない、物理的に逃げられないので」「自分のことは置いて家族には逃げてもらいたい。残された家族には悪いと思うが…」という意見もあり、発災時は大変深刻な状況になることが予想されます。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

「災害への備えに関するアンケート」で回答があった方の約45%が、参加したことがあると答えています。その方からは、「地域の人とコミュニケーションが取れて良かった」「病気のことを話せて、知ってもらえてよかった」という声がありました。逆に、参加したことがないと答えた方は、「地域で訓練をやっていない」「訓練プログラムが山の中への避難など身体状況的に参加が厳しかった」という声もあり、難病の患者が参加できる訓練プログラムが必要だと考えます。

Q 難病の方の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

おそらく緊急時に公助の部分は間に合わないと思いますので、まずは自助の部分、当事者と家族で普段からの備えをしておく、災害に対して興味を持つておくことが重要です。主治医とコミュニケーションが取りにくいと感じている患者さんが多いですが、日頃の受診時に主治医に相談をし、非常持ち出し袋を準備しお薬手帳を入れておくことや、薬の備えをしておくことです。しかし、家族だけでは対処できない、逃げられない場合には、共助が必要です。出来る限り、避難訓練に参加し、まず体の状態を知ってもらい、災害時にはこういった支援が必要なのか、地域に知ってもらえる状況をつくるのが大事だと思います。





障害当事者と支援団体にインタビューをしてみても

障害種別によって異なる課題はあったが、共通した課題も見つかった。地域とのつながり、つまり「共助」の関係をいかに作るかということだ。そのために必要なのは、「障害の理解」と「地域住民とのつながりづくり」である。まずは、障害に対する正しい知識を持つこと。そして、当事者と当事者家族、地域住民が何らかのきっかけを得てつながり、助け合える関係を築くことが求められている。

障害の理解

まずは学びの機会が重要である。これは本誌を発行している障害者福祉センターもそうだが、障害に対する理解・啓発の機会を作るために、各障害者団体及び障害当事者個人からも働きかけを行うことが必要であると感じた。まず知ってもらう、理解をしてもらうことで、当事者や当事者家族だけでは思いつかない解決策や、支援方法が「共助」の中で見つかるのではないかと。防災というテーマは人々が身近に感じやすいテーマだと言われている。特に南海トラフ巨大地震への備えが必要な高知市では他人ごとではない。また、防災を糸口に地域での障害に対する理解が深まれば、日常的な生活課題の解決や、障害者の社会参加増進につながる可能性がある。今後あらためて、地域住民に対する障害者理解・啓発の方法を模索する必要がある。

地域住民とのつながりづくり

地域共生社会実現のため、様々な施策が行われている。障害の有無に関わらず、自分ができること・得意なこと・やりたいことを地域活動の中で活かしていくことが求められている。その中で、障害当事者や家族が果たす役割は小さくない。本誌冒頭で、「障害者は高齢者の先駆者である」とお伝えした。つまり、障害のある方や理解している人にしかできない、気付きや行動があるのではないかと。地域社会が一回り受け入れの幅を広げ、障害当事者や家族が一歩踏み出せば、地域全体の課題解決につながるかもしれない。

まとめとして

障害のある方の防災についての課題は山積している。しかし、「命を守る」という絶対的な目標のために、解決の道を模索し続けなければならない。「何が出来るか」「どうやったら出来るか」。これからも歩みを止めず、課題に立ち向かう姿勢が求められている。



避難訓練の様子



視覚障害者誘導の様子



すずめ家族の会会長（防災士） 入交 智子氏

社会福祉法人すずめ福祉会は、高知市内に3カ所（丸池、一宮、旭天神）の障害者通所施設とグループホーム4カ所を運営しています。身体、知的、精神と様々な障害を持つ10歳代から80歳代まで約160名が利用しています。

この施設のうち、すずめ共同作業所は高知市丸池町にあり、南海トラフ巨大地震により、30～40分後には最大浸水深2～3mの津波、液状化による道路の寸断、周辺家屋の倒壊などが想定されている地域です。特に津波は、海からと江ノ口川、丸池川、国分川などの遡上によるダブルの被害を受けることが想定されています。

そのため、すずめ共同作業所では避難訓練を毎月1回実施しています。参加者は利用者52名（うち車いす4名、電動車いす9名）と職員21名で、近くの建物の屋上などへ避難する想定で行っています（2022年1月時点）。

そんな訓練を続ける中で、特別支援学校や福祉施設等で支援を行っている湯井恵美子先生と出会いました。

湯井先生からの助言により、利用者のできること、できないこと、一人ではできないけど手伝ってもらったらできそうなこと（例えば1人で歩けるが階段は上がれない、でも肩を支えてもらったら上がれるなど）を整理していききました。

整理をしていく中で、「手伝ってもらったら」の部分を「職員」だけでなく「地域の方々」にも一緒に手伝ってもらうことができないだろうか？どうしたらそれができるだろうか？と考えました。

そこで「すずめ共同作業所SOSカード（前号Vol.46に詳細を掲載）」を作成し、地域の皆さんにカードを見てもらい、アドバイスを頂く機会を設けました。地域の方からは、文字の量が多くて小さいと読み取りづらい、避難の際に性別、年齢、本名などの情報は不要など様々なご意見をいただきました。

試行錯誤を繰り返し、湯井先生、施設や行政の担当の方々、丸池、下知地区の方々など、たくさんの方の知恵と力を頂き形にすることができました。

この活動は家族の思いが原動力となって始まりました。災害に関する正しい知識と理解を深めたことが気づきとなり、「わが子が確実に助かるためには、職員だけでなく地域の方々の力をお借りするしかない！『いつか』ではなく『いま』取り組もう！災害が起こってしまったからは遅い、手遅れになる前に、今しかできない！」との強い思いが背中を押してくれました。

「すずめ共同作業所SOSカード」の作成を通してたくさんの「つながり」をいただきました。今はようやくスタートラインに立った状態です。災害の発生前に少しでも多くの人に知ってもらい、助かる人が増えて欲しいと願っています。



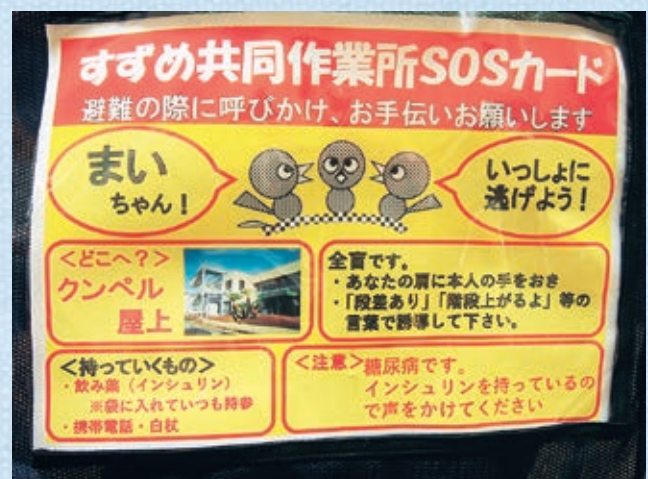
避難訓練の様子

何でも自分ひとりでできるようにならなくてもいい。できないことをできないと周囲に認識してもらい助けてもらうことも大切だと思います。

これからは、支援する側・支援を受ける側という区別をせず、皆が主体的に防災に取り組むことが重要であると考えます。すずめ共同作業所は現在建て替え工事を行っていて、完成すれば利用者はもちろん、地域の皆さんも利用いただける、新たな避難場所として生まれ変わる予定です。これからは平常時からの避難訓練や防災会議等の場に、もっと要支援者（障害者、高齢者、その家族や施設のスタッフ等）も参加することが必要だと感じています。

今回ご紹介したSOSカードは、利用者も職員も「全員」が、「確実に」に安全な場所へ安全な方法で行くことを目的としています。つまり「命を守る」ことを第一の目的としているのです。

災害の発生から命を守る、命をつなぐことはもちろん大切です。でも、災害はいつ起こるか分からない。「いつ起こってもみんな助かる」「自分も助けてもらえる、きっと大丈夫！」みんながそう思えるような、未来に希望が持てる日々の暮らしをすることが大切だと思います。防災とは、今、安心して豊かな気持ちで暮らすことができるようにすることも含まれるのではないのでしょうか。



すずめ共同作業所SOSカード

障害者福祉センター 年間行事予定カレンダー

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター
住 所：高知市旭町2丁目21-6
電 話：088-873-7717 FAX：088-873-6420
E-mail：asahi@kochi-csw.or.jp



2022年4月～2023年3月

開催予定日・期間	行事名称	対 象	備考（募集期間・開催場所等）
(通年) 2022年4月～2023年3月	出張手話講座	高知市在住または 在学、在勤で10名以上の グループや団体	募集締切：派遣希望日の30日前までに 開催場所：申込みをされたグループ、 団体でご準備をお願いします
2022年5月28日(土) 午前 10:00～12:30	自動車運転支援者講座	作業療法士等、自動車運転に 係る支援者の方	募集期間：4月11日(月)～5月13日(金) 開催場所：高知県運転免許センター
2022年5月28日(土) 午後 13:30～16:30	障害のある方の運転教室	18歳以上で高知市在住の 肢体に障害のある方	募集期間：4月11日(月)～5月13日(金) 開催場所：高知県運転免許センター
2022年6月25日(土) 10:00～12:00	パソコンのエクセルで 絵を描こう! 体験教室	小学生以上で高知市在住の障害 のある方(マウス操作が可能の方)	募集期間：6月3日(金)～17日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2022年7月23日(土) 10:00～12:00	はじめての頭脳スポーツ (将棋) 体験教室	小学生以上で高知市在住の 障害のある方	募集期間：6月3日(金)～7月8日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2022年8月3日(水) ～8月26日(金) 水・金曜日 全8回 18:30～20:30	はじめての手話講座 (夜コース)	小学生以上で高知市在住 または在学、在勤の方	募集期間：7月4日(月)～26日(火) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2022年8月27日(土) 13:00～16:00	作る!楽しむ! プラモデル体験教室	小学生以上で 高知市在住の障害のある方	募集期間 障害のある方 7月4日(月)～8月19日(金) ※一般 8月1日(月)～8月19日(金) ※定員に空きがある場合のみ 開催場所：高知市障害者福祉センター
2022年10月15日(土) 午前 10:00～12:30	自動車運転支援者講座	作業療法士等、自動車運転に 係る支援者の方	募集期間：9月5日(月)～9月30日(金) 開催場所：高知県運転免許センター
2022年10月15日(土) 午後 13:30～16:30	障害のある方の運転教室	18歳以上で高知市在住の 肢体に障害のある方	募集期間：9月5日(月)～9月30日(金) 開催場所：高知県運転免許センター
2022年11月19日(土) 10:00～15:00	第5回障害者福祉センター 文化祭	どなたでも参加可	実施予定行事・作品展、屋台コーナー ・陶芸素焼き皿絵付け体験 ・プラモデル作り体験
2022年12月17日(土) 13:30～16:30	作りおき料理教室	高知市在住で障害のある方	募集期間：11月7日(月)～12月2日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2023年1月21日(土) 10:00～12:00	障害のある方の防災講座	小学生以上で高知市在住 または在学、在勤の方	募集期間：12月5日(月) ～2023年1月13日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2023年2月2日(木) ～3月2日(木) 各月・木曜日(祝日を除く) 全8回 13:30～15:30	はじめての手話講座 (昼コース)	小学生以上で高知市在住 または在学、在勤の方	募集期間：1月10日(火)～27日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2023年2月4日(土) 10:00～12:00	はじめてのスマホ体験教室	高知市在住で障害があり、スマート フォンの操作に興味・関心のある方	募集期間：1月10日(火)～27日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター
2023年3月4日(土) 10:00～12:00	障害のある方を支援する ボランティア体験教室	高知市在住で障害のある方の 援助活動に興味・関心のある方	募集期間：2月6日(月)～24日(金) 開催場所：高知市障害者福祉センター

※開催予定は変更になる場合があります。



編集後記

2年ぶりに本誌の編集を行うこととなりました。
内容は前号に引き続き、今回も防災をテーマとしました。自分もまずは
家にあるマンガ2,000冊の本棚を固定することから始めようと思います。
突然ですが、ここで一句。

漫画本 買い足すたびに おかん無理(お冠)

(矢野田 三灯花)

ほんとうにあった

障害者あるある4コマ漫画

大失敗

高知県立高知若草特別支援学校 中学部 1 年
山本 翔太郎・和田 歩生



慣れこそものの上手なれ

高知県立高知ろう学校 高等部 2 年・3 年



＊インフォメーション＊

同封しておりますアンケートにご協力ください。お答えいただいた方の中から抽選で10名様に、高知市社協地域福祉推進キャラクター「ほおっちょけん」のオリジナルハンカチをお送ります。
※当選は発送をもってかえさせていただきます。
また、本誌を複数欲しい方がいらっしゃいましたら、障害者福祉センターまでご連絡ください。

こうちノーマライゼーション

2022.3
vol.47

発行：高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

〒780-0935 高知市旭町2丁目21-6
TEL：088-873-7717 FAX：088-873-6420
URL：http://www.kochi-csw.or.jp/
E-mail：asahi@kochi-csw.or.jp





障害者福祉センター宛 FAX 088-873-6420

こうちノーマライゼーション 読者アンケート

この度は、「こうちノーマライゼーション vol.47」をご覧いただき、ありがとうございます。

今後のよりよい誌面づくりのために、皆様からのアンケートを募集いたします。以下の質問にお答えいただき、FAXまたは郵送にて障害者福祉センターまでご送付ください。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で**10名様**にほおっちょけんグッズをお送りいたします。なお、当選はグッズの発送をもって代えさせていただきます。

受付期間：令和4年12月末日

-
- ①** 住所・氏名・連絡先を教えてください。（グッズをご希望でない方は未記入でも結構です）

住 所	〒
氏 名	
連絡先	☎（ ） ー

- ②** 年齢を教えてください。

☐ 10歳未満 ☐ 10歳代 ☐ 20～30歳代 ☐ 40～50歳代 ☐ 60歳代以上

- ③** 本誌をどのようにして知りましたか。

☐ 学校・職場 ☐ 市役所等の窓口 ☐ 病院・施設の窓口や待合所

☐ その他

- ④** 本号で興味深かった記事を教えてください。（複数回答可）

☐ 表紙 ☐ 特集 障害のある方の防災 その2
☐ 防災コラム ☐ 年間行事カレンダー
☐ ほんとうにあった障害者あるある 4 コマまんが

- ⑤** 本誌へのご意見・ご感想、今後希望される特集・テーマ等がありましたら、教えてください。

※本アンケートでご記入いただいた内容は、障害者福祉センターの事業に関わる目的のみに使用し、他の目的には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました



◆送付先◆

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター
〒780-0935 高知市旭町2丁目21-6

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

2022. 3

vol. 47

こうち

K o c h i N o r m a l i z a t i o n

ノーマライゼーション

特 集 障害のある方の防災 その2

CONTENTS

特集「障害のある方の防災 その2」……………①～⑧

防災コラム「家族から考える防災」……………⑨

年間行事カレンダー&インフォメーション……………⑩

「ほんとうにあった障害者あるある4コマ漫画」……………⑪

特集 障害のある方の防災 その2

“「障害者」は「高齢者」の先駆者である”

近い将来、必ず起こるであろう災害への対策として、
障害のある方の課題を知ること、これからの防災課題を考える。

障害による課題の違い

前述のとおり、障害の中にはさまざまな理由により社会生活に制限を受ける方が居る。身体障害の中でも、視覚、聴覚、手足などの肢体、内臓機能など制限を受ける体の部位が様々であり、課題もそれぞれである。また、身体、知的、精神、難病など、すべての障害が重度から軽度までの幅が広い。障害等級の違いによっては、自身で出来ること、出来ないことに大きな差が出てくる。

高知市の障害者数

令和3年3月末時点の高知市において、身体・知的・精神の障害者手帳と難病医療の受給者証を所持している方は、合算して約7%である。しかし、障害や難病があっても、障害者手帳や受給者証をすべての人が申請、取得しているわけではない。そのため、少なくとも高知市内で約15人に1人以上は、何らかの障害または難病に関する課題を抱えていることになる。

障害とは

障害者基本法では、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む）、その他の心身の機能の障害がある者であつて、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるもの」と定められている。また、いわゆる「難病」についても、障害者総合支援法において、対象の疾病が順次拡大している。

障害のある方の防災課題

前号では、災害時に避難をあきらめている障害のある方が多く居ることをお伝えした。「周りに迷惑をかけたくない」「避難訓練に今まで参加したことがないから不安だ」「障害のことを理解してくれている人が居ないと対応が難しい」など、理由は様々だ。

一方、地域防災を支える住民の方々からは、「自分たちの地域に障害者が居るのか分からない」「障害に対しての知識がないため接し方が分からない」「地域の中で障害者支援を出来る人が少ない」などの声が聞かれた。

防災課題の整理と対策

障害のある方の防災を考えるために、障害内容、制限を受ける可能性のあること、できること・できないことを知り、備えることが必要である。

次ページからは様々な障害のある方へのインタビューを掲載する。その内容には、高齢者、障害者はもちろん、妊娠中の方や乳幼児、病気で体力の衰えた方など、災害弱者と呼ばれる方々を救うためのヒントがあるだろう。これから大規模災害が予想される高知で「誰一人取り残さないために何ができるか」を考える。

インタビュー

高知県視覚障害者協会会長：片岡 義雄 氏

同会員：中島 正美 氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

片岡氏：私は小眼球のため視力が 0.01 しかありません。家族が不在のことが多いため、まず避難所への移動に不安を感じています。特に水害・地震の際は、（自宅周辺の地形も変化している可能性があるため）単独での避難行動が難しくなります。

中島氏：私も視力は 0.01 しかなく、視野狭窄（視野の狭まる状態）と夜盲（夜見えづらい状態）があるのですが、単身ではないので、家族が近くに居れば手伝ってもらってなんとか避難ができると思います。しかし、（家族が）不在だった場合には困りますね。携帯電話が不通になったらどうしようもなくなるかもしれません。家族とも連絡が取れなくなりますし、災害情報も入りにくくなりますから。

片岡氏：避難後も不安があります。福祉避難所（一般の避難所では生活に支障をきたす方が過ごす避難所）は、発災後 3 日程度で開設するとのことなので、まずは通常の避難所に行くこと

になると思います。その場合、はじめての場所なので、トイレなど生活全般の不安がありますし、支援をしてくれる方が居ないと、情報が得られるか分からない怖さがあります。

Q 視覚障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

中島氏：視覚障害者は、他の障害と比べても自分からコミュニケーションを取ることが難しいということです。目が見えない状態だとなかなか自分からあいさつもしくい。結果的に受け身になりがちの方が多と思います。

片岡氏：災害時の避難や、避難所での生活も含めて、日頃から隣近所や町内会、民生委員さんなどとの関わりを持つことが大事だと理解しています。ですが、なかなか自分たちではきっかけを作りにくい。そんな状態で、避難を諦めてしまっている人も少なからず居るのが現状です。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

中島氏：私は参加したことはないです。声もかかったことがない。自分の地域では実施していないのかな、
と思っています。

片岡氏：私も今まで参加したことがないです。私たちも不安がありますが、地域の方々も不安があって声掛けしにくいのではないかと思います。そういった意味でも普段からのコミュニケーションは大事ですね。そういった訓練等への参加も、ひとつのきっかけになると思うので、声掛けをもらえれば参加したいと思っている人は多いのではないのでしょうか。

Q 視覚障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

片岡氏：これは防災に限った話ではないですが、視覚障害者への接し方や誘導の仕方などを理解していただけるとうれしいです。声掛けをしてくれる時は名前を言ってもらう、誘導・案内をしてくれる時は前を歩いてもらいたい、その時に案内してくれる人の肩もしくは腕に手を置かせてもらいたい、などです。視覚障害者の基本的なことを理解してくれている、というだけで安心することができます。

中島氏：視覚障害者本人の防災意識向上も必要です。家具の固定や寝室に障害物を極力置かないなど、命を守るための備えをする。意識を持つことですね。そうすれば地域住民とのつながりの重要性も気付けるのではないのでしょうか。

中島正美氏

片岡義雄氏

特集 障害のある方の防災 その2

インタビュー

話で会話をしている様子などから周りに気付いてもらえると思いますが、一人でいると見た目からは分からない。そのため、避難所での生活も周りから理解されづらい。また、音声での案内・放送が聞こえないため、支援を受けるための情報が不足する可能性が高いですね。

インタビュー

高知市身体障害者連合会会長：中屋 圭二 氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

大地震が起きた時に津波避難タワーへ避難してきた際に、普段は入り口が施錠されていると思うが、開錠してもらえるのか不安があります。自分も車いす利用者だが、津波避難タワーや学校などの避難所は自力で上の階に上られるのかどうか。あと、避難した先で困るのはやっぱりトイレです。最近は小学校などにも多目的トイレを設置しているが、オストメイト対応トイレはまだまだ少ないですね。

Q 身体障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

避難時については、状況によりますが避難所へ向かうまでに手助けが必要の可能性があるとします。避難所へ着いてからも、車いすの方は床で寝るのは難しい人もいるので、ある程度高さのあるベッドが必要です。段ボールベッドが普及しているが、人によっては起き上がれないかもしれない。トイレについてもすべての身体障害の方が利用できるか分からない。そういった状況の中、避難自体をためらう障害者も居ます。そういった状況から、出来る限り福祉避難所は発災から3日以内に開設してもらいたいです。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

何度か参加したことはありますが、直近の3回ぐらいは、他の予定や行事とちょうど重なって行けなかったですね。

中屋圭二氏

Q どうすれば訓練に参加しやすくなると思いますか？

私の場合は前もって大々的に広報をしてくれると調整できるので参加しやすくなりますね。私は地域組織の役員もやっているのですが、訓練の情報が入ってきますが、会員からは声がかからない、訓練をやっているのか分からないという話も聞きます。出来れば行政主導で、声掛けをしてもらいたいかなと思います。

高知県聴覚障害者協会会長：竹島 春美 氏

竹島春美氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

例えば雨音、雷の音などが聞こえないので、水害などは特に避難をするタイミングが遅れる可能性があると感じています。東日本大震災の時も聴覚障害の方が被害を多く受けました。健常者と比べて2倍以上の方が亡くなったと聞いています。これは、避難しなければならないことが伝えられなかったことが影響しています。避難情報が入ってくるかどうか、受け取れるかどうか、不安がありますね。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

参加したことはないですね。地域では実施しているのかもしれませんが、声をかけられたことがないです。

Q 声かけがあれば訓練には参加しますか？

はい、参加したいと思います。もちろん最初は不安ですが、実際に訓練に参加することで、どのような対応をしてもらえるのか分かりますし、自分に必要な備えについても考えることができると思います。

Q 聴覚障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

様々な面で、音声案内だけでなく見える化、可視化してもらいたいです。避難所などでは、近くの人が聞こえない人に気付いたら、避難所のスタッフの方などに知らせてもらいたいです。聴覚障害の方や聴覚障害に理解のある方向けにリストバンドを持ってもらっているので、目印にしてもらいたい。特別なことではなく、口の形をはっきり、ゆっくり話をしてもらおうなど、些細なことでも安心感を得られます。また手話にも慣れてもらうことも、ろう者理解につながります。高知市内にも手話サークルが複数あるので、ぜひ多くの方に参加してもらいたいです。

また、ろう者自身も地域で普段からコミュニケーションを取ることが大事です。民生委員さんはもちろん、隣近所の方にも顔を覚えてもらう、知ってもらうことで、災害時の助け合いにつながると思います。

Q 聴覚障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

特に聴覚障害は、見た目にはわかりづらいという特性があります。ろう者が複数名居れば、手

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

知的障害の方は、日中の時間帯を就労施設やデイサービスなどで過ごしている方も多くおられます。また、近年「地域共生社会」が叫ばれる中で、施設から地域への移行が進み、グループホームなどで生活している方もおられます。それは、自宅以外で被災する可能性が高いということでもあります。知的障害のある方が生活される施設として考えていくと、発災時に利用者はもちろん、職員の安全が確保できるか不安があります。災害に対する備えを進めている施設がほとんどだと思いますが、避難生活が長期化すると、服薬を必要とする方の薬の確保や、環境変化が理解しにくい方は混乱をきたす可能性もあり、どのような状況でどのような対応が出来るのか、予測はしにくいのが実情です。また、生活するうえで必要な食事、入浴、排せつに加え、服薬の維持が問題となるでしょう。特に排せつや入浴などの衛生面については、避難が長期化すると感染症も心配です。

田中正哉氏

Q 知的障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

避難後の課題が多いと思います。施設やグループホームなどが緊急一時避難所、福祉避難所として指定されていることも珍しくありません。そのため、災害時には地域住民の方と一緒に避難生活を送ることが予想されます。その際に地域住民の方と知的障害の方を同時に対応することを迫られるため、事前の準備やシミュレーションをしておく必要があるでしょう。しかし、発災してみないと分からない、というのが正直なところです。

インタビュー

松尾美絵氏

高知市精神障害者家族会連合会会長：松尾 美絵 氏

同理事：竹村 幸彦 氏

竹村幸彦氏

Q 災害時に不安に感じていることを教えてください。

竹村氏：精神障害の方は身体的に問題ない方が多いので、避難はなんとかできるかもしれませんが、避難所での生活に不安があると思います。特に統合失調症などで重度の方は、環境の変化で病状が悪化することが予想されますし、多くの人が居る避難所で生活ができないのでは

Q 身体障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

支援者の方には、自分たちの地区に住んでいる支援が必要な人を知ってもらうこと、これが一番必要だと思います。人それぞれ必要な支援が違いますから。

一方で、障害当事者も地域の情報や動向に興味を持つことが必要です。防災関係なく、町内会等、地域の集まりに参加することも大事です。「障害があるからやってもらう」ではなく、地域で自分のできることを精いっぱいやった上で、「こういうことに困っているからお願いしたい」という話をしてほしい。障害があっても社会生活における責任を持つということ。受け身になるのではなく、家族以外で悩みを言える人を地域で作っておいてもらいたい。

「共助」という考え方が広まってきているが、今地域の支援者と障害者、お互いが身構えすぎていると思う。コミュニケーションを取ってお互いが「慣れる」ことが必要だと感じています。

特集 障害のある方の防災 その2

インタビュー

秋友英稔氏

高知県知的障害者育成会理事長：秋友 英稔 氏

同理事：田中 正哉 氏

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

施設として地域の防災会、防災夜回りや地域の会合などに積極的に参加し、避難訓練にも参加しています。また、施設で防災訓練や各種イベントを主催し、地域住民の方にも参加してもらい、利用者と触れ合ってもらうことで、普段からのコミュニケーションを取っています。しかし、ここ2年ほどはコロナ禍で実施できていない行事が多いです。

Q 知的障害のある方の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

障害のある方が過ごす施設として考えるならば、地域の方々の理解があつてこそ、運営ができると思います。町内会費を払い、地域の活動を住民さんと一緒に担いながら、日常的に共助の体制を作っておくことが重要です。

また、今回の新型コロナウイルス感染拡大も災害といえるのかもしれませんが。人と人との関わり、顔と顔を合わせた活動が困難になっています。しかし、そういった活動こそが「ともに支え、助け合える」地域づくりにおいて大切であると実感しています。

特集 障害のある方の防災 その2
インタビュー

高知県難病団体連絡協議会理事長：竹島 和賀子 氏

竹島和賀子氏

Q 災害時に不安を感じていることを教えてください。

県内で言うと、難病指定を受けている方が 約 6,000 人居ます。難病の種類も様々なので、それぞれに不安なことは違いますが、たとえば人工呼吸器を付けている方などは、停電時の電源確保に不安を持っている方が多いです。拠点病院はあるけれど、災害の時に機能するのかどうか分からない。あと、服薬をされている方は、薬がとても大事なもので、やはりライフラインが止まると心配だという声が多いです。その中で、「感染症の事一つ取り上げても避難所より自宅の方が安全だ」と考えている方もいました。また、「怖くて災害のことを考えたくない、物理的に逃げられないので」「自分のことは置いて家族には逃げてもらいたい。残された家族には悪いと思うが…」という意見もあり、発災時は大変深刻な状況になることが予想されます。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

「災害への備えに関するアンケート」で回答があった方の約 45%が、参加したことがあると答えています。その方からは、「地域の人とコミュニケーションが取れて良かった」「病気のことを話せて、知ってもらえてよかった」という声がありました。逆に、参加したことがないと答えた方は、「地域で訓練をやっていない」「訓練プログラムが山の中への避難など身体状況的に参加が厳しかった」という声もあり、難病の患者が参加できる訓練プログラムが必要だと考えます。

Q 難病の方の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

おそらく緊急時に公助の部分は間に合わないと思いますので、まずは自助の部分、当事者と家族で普段からの備えをしておく、災害に対して興味を持っておくことが重要です。主治医とコミュニケーションが取りにくいと感じている患者さんが多いですが、日頃の受診時に主治医に相談をし、非常持ち出し袋を準備しお薬手帳を入れておくことや、薬の備えをしておくことです。しかし、家族だけでは対処できない、逃げられない場合には、共助が必要です。出来る限り、避難訓練に参加し、まず体の状態を知ってもらい、災害時にはどういった支援が必要なのか、地域に知ってもらえる状況をつくるのが大事だと思います。

Q 難病を抱える方は、どのような防災課題があると思いますか？

ないかでしょうか。

松尾氏：服薬している薬も病状によっていろいろと種類がありますから、確保できるか分からないですね。

Q 精神障害のある方は、どのような防災課題があると思いますか？

竹村氏：避難所で迷惑をかけるかもしれないと思うと、私なら避難をせず、出来る限り薬を持って、車中泊をするかもしれませんね。ただ、避難生活が長期化すると厳しいです。

松尾氏：避難所での生活をするにあたっては、専門家の配置等をしていただけると助かります。家族と一緒に避難できればいいですが、状況によっては障害のある方一人で避難してくる可能性もあるわけですから。避難行動要支援者の名簿も1級からの登録ですが、2級の幅が広いから支援が必要な方が零れ落ちている可能性があります。また、精神障害の方が居る世帯は、障害のことを地域に伝えず、ひっそりと暮らしている方が多い。

竹村氏：精神障害の人は怖い、というイメージがある。状態の悪い人と生活していたら地域住民は寄ってこないし、家族も地域と関わることを避けてしまう。

松尾氏：以前よりは偏見等は少しマシになったかもしれませんが、障害への理解がないと地域生活で日常的なつながりを作るのは難しい。

竹村氏：障害のある本人はもちろんだが、家族の方が大変かもしれない。精神的に追い詰められていきます。

Q 避難訓練や防災訓練に参加されたことはありますか？

松尾氏：参加したことはないですね。集合住宅とかだと情報が入ってこない。訓練をしているのかも分からないです。

竹村氏：私は大きな団地なので防災訓練をやっている。ただ、障害のある息子は今一人暮らしをしているので、参加してないかもしれない。

松尾氏：やはり地域との関わりが無いと、参加しづらくなると思います。

Q 精神障害者の防災を考える上で、必要だと思うことは何ですか？

竹村氏：家族もしっかり準備をしておくことですね。家族会の方に話を聞くと、非常持ち出し物に薬は必須、という方も多いです。

松尾氏：薬については、高齢者や持病をお持ちの方も同じだと思います。命をつなぐためにも必要です。また重要なのは、日常的な地域とのつながりを持って置くこと。そして障害についての理解をしてもらうこと。病気にもよりますが、状態に波があること、幻聴が聞こえることがあるなど、身近な方に理解してもらう必要があります。災害時のことを備えるにあたっては日常が大事だと思います。それが本人の安定にもつながるし、家族も地域とつながりが出来るようになる。そういった障害理解のための啓発をしていくことも重要だと考えています。

これからも歩みを止めず、課題に立ち向かう姿勢が求められている。

避難訓練の様子

視覚障害者誘導の様子

防災コラム

すずめ家族の会会長（防災士）

入交 智子 氏

社会福祉法人すずめ福祉会は、高知市内に3カ所（丸池、一宮、旭天神）の障害者通所施設とグループホーム4カ所を運営しています。身体、知的、精神と様々な障害を持つ10歳代から80歳代まで約160名が利用しています。

この施設のうち、すずめ共同作業所は高知市丸池町にあり、南海トラフ巨大地震により、30～40分後には最大浸水深2～3mの津波、液状化による道路の寸断、周辺家屋の倒壊などが想定されている地域です。特に津波は、海からと江ノ口川、丸池川、国分川などの遡上によるダブルの被害を受けることが想定されています。

そのため、すずめ共同作業所では避難訓練を毎月1回実施しています。参加者は利用者52名（うち車いす4名、電動車いす9名）と職員21名で、近くの建物の屋上などへ避難する想定で行っています（2022年1月時点）。

そんな訓練を続ける中で、特別支援学校や福祉施設等で支援を行っている湯井恵美子先生と出会いました。

湯井先生からの助言により、利用者のできること、できないこと、一人ではできないけど手伝ってもらったらできそうなこと（例えば1人で歩けるが階段は上がれない、でも肩を支えてもらったら上がれるなど）を整理していきました。

整理をしていく中で、「手伝ってもらったら」の部分を「職員」だけでなく「地域の方々」にも一緒に手伝ってもらうことができないだろうか？どうしたらそれができるだろうか？と考えました。

そこで「すずめ共同作業所SOSカード（前号Vol.46に詳細を掲載）」を作成し、地域の皆さんにカードを見てもらい、アドバイスを頂く機会を設けました。地域の方からは、文字の量が多くて小さいと読み取りづらい、避難の際に性

別、年齢、本名などの情報は不要など様々なご意見をいただきました。

試行錯誤を繰り返し、湯井先生、施設や行政の担当の方々、丸池、下知地区の方々など、たくさんの方の知恵と力を頂き形にすることができました。

この活動は家族の思いが原動力となって始まりました。災害に関する正しい知識と理解を深めたことが気づきとなり、「わが子が確実に助かるためには、職員だけでなく地域の方々の力をお借りするしかない！『いつか』ではなく『いま』取り組もう！災害が起こってしまったからは遅い、手遅れになる前に、今しかできない！」との強い思いが背中を押してくれました。

難病の種類や病状を考えると、すべて行政で対応するのは難しいと思います。災害時にすぐ救助がくるこ

とは出来ないでしょう。また、見た目では分かりにくい難病の方もいます。そして周りに言いたくない、知られたくないという方もいます。そのため、近所の方や地域の方が、支援の必要な方だと知らないことがあります。たとえ難病であることを地域の方が知ったとしても、何をすればいいのか分からない。

先日難病当事者と支援団体を対象に「災害への備えに関するアンケート」を実施したのですが、「災害が起きたときに避難をしない」と答えた方が多くいました。

障害当事者と支援団体にインタビューをしてみて

障害種別によって異なる課題はあったが、共通した課題も見つかった。地域とのつながり、つまり「共助」の関係をいかに作るかということだ。そのために必要なのは「障害の理解」と「地域住民とのつながりづくり」である。まずは、障害に対する正しい知識を持つこと。そして、当事者と当事者家族、地域住民が何らかのきっかけを得てつながり、助け合える関係を築くことが求められている。

障害の理解

まずは学びの機会が重要である。これは本誌を発行している障害者福祉センターもそうだが、障害に対する理解・啓発の機会を作るために、各障害者団体及び障害当事者個人からも働きかけを行うことが必要であると感じた。まず知ってもらう、理解をしてもらうことで、当事者や当事者家族だけでは思いつかない解決策や、支援方法が「共助」の中で見つかるのではないかな。防災というテーマは人々が身近に感じやすいテーマだと言われている。特に南海トラフ巨大地震への備えが必要な高知市では他人ごとではない。また、防災を糸口に地域での障害に対する理解が深まれば、日常的な生活課題の解決や、障害者の社会参加増進につながる可能性がある。今後あらためて、地域住民に対する障害者理解・啓発の方法を模索する必要がある。

地域住民とのつながりづくり

地域共生社会実現のため、様々な施策が行われている。障害の有無に関わらず、自分ができること・得意なこと・やりたいことを地域活動の中で活かしていくことが求められている。その中で、障害当事者や家族が果たす役割は小さくない。本誌冒頭で、「障害者は高齢者の先駆者である」とお伝えした。つまり、障害のある方や理解している人にしかできない、気付きや行動があるのではないかな。地域社会が一回り受け入れの幅を広げ、障害当事者や家族が一步踏み出せば、地域全体の課題解決につながるかもしれない。

まとめとして

障害のある方の防災についての課題は山積している。しかし、「命を守る」という絶対的な目標のために、解決の道を模索し続けなければならない。「何が出来るか」「どうやったら出来るか」。

対 象

備考（募集期間・開催場所等）

（通年）

2022 年 4 月～2023 年 3 月

出張手話講座

高知市在住または

在学、在勤で 10 名以上の

グループや団体

募集締切：派遣希望日の 30 日前までに

開催場所：申込みをされたグループ、

団体でご準備をお願いします

2022 年 5 月 28 日（土）午前

10：00～12：30

自動車運転支援者講座

作業療法士等、自動車運転に

係る支援者の方

募集期間：4 月 11 日（月）～5 月 13 日（金）

開催場所：高知県運転免許センター

2022 年 5 月 28 日（土）午後

13：30～16：30

障害のある方の運転教室

18 歳以上で高知市在住の

肢体に障害のある方

募集期間：4 月 11 日（月）～5 月 13 日（金）

開催場所：高知県運転免許センター

2022 年 6 月 25 日（土）

10：00～12：00

パソコンのエクセルで

絵を描こう！体験教室

小学生以上で高知市在住の障害

のある方（マウス操作が可能な方

募集期間：6 月 3 日（金）～17 日（金）

）開催場所：高知市障害者福祉センター

2022 年 7 月 23 日（土）

10：00～12：00

はじめての頭脳スポーツ

（将棋）体験教室

小学生以上で高知市在住の

「すずめ共同作業所 SOS カード」の作成を通してたくさんの「つながり」をいただきました。今はようやくスタートラインに立った状態です。災害の発生前に少しでも多くの人に知ってもらい、助かる人が増えて欲しいと願っています。

避難訓練の様子

何でも自分ひとりでできるようにならなくてもいい。できないことをできないと周囲に認識してもらい助けてもらうことも大切だと思います。

これからは、支援する側・支援を受ける側という区別をせず、皆が主体的に防災に取り組むことが重要であると考えます。すずめ共同作業所は現在建て替え工事を行っていて、完成すれば利用者はもちろん、地域の皆さんも利用いただける、新たな避難場所として生まれ変わる予定です。これからは平常時からの避難訓練や防災会議等の場に、もっと要支援者（障害者、高齢者、その家族や施設のスタッフ等）も参加することが必要だと感じています。

今回ご紹介した SOS カードは、利用者も職員も「全員」が、「確実」に安全な場所へ安全な方法で行くことを目的としています。つまり「命を守る」ことを第一の目的としているのです。

災害の発生から命を守る、命をつなぐことはもちろん大切です。でも、災害はいつ起こるか分からない。「いつ起こってもみんな助かる」「自分も助けてもらえる、きっと大丈夫！」みんながそう思えるような、未来に希望が持てる日々の暮らしを作ることが大切だと思います。防災とは、今、安心して豊かな気持ちで暮らすことができるようにすることも含まれるのではないのでしょうか。

すずめ共同作業所 SOS カード

障害者福祉センター

年間行事予定カレンダー

2022 年 4 月～2023 年 3 月

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

住 所：高知市旭町 2 丁目 21-6

電 話：088-873-7717 FAX：088-873-6420

E-mail：asahi@kochi-csw.or.jp

開催予定日・期間

行事名称

肢体に障害のある方

募集期間：9月5日（月）～9月30日（金）

開催場所：高知県運転免許センター

2022年11月19日（土）

10：00～15：00

第5回障害者福祉センター

文化祭

どなたでも参加可

実施予定行事・作品展、屋台コーナー

・陶芸素焼き皿絵付け体験

・プラモデル作り体験

2022年12月17日（土）

13：30～16：30

作りおき料理教室

高知市在住で障害のある方

募集期間：11月7日（月）～12月2日（金）

開催場所：高知市障害者福祉センター

2023年1月21日（土）

10：00～12：00

障害のある方の防災講座

小学生以上で高知市在住

または在学、在勤の方

募集期間：12月5日（月）

～2023年1月13日（金）

開催場所：高知市障害者福祉センター

2023年2月2日（木）

～3月2日（木）

各月・木曜日（祝日を除く）

全8回 13：30～15：30

はじめての手話講座

（昼コース）

小学生以上で高知市在住

または在学、在勤の方

募集期間：1月10日（火）～27日（金）

開催場所：高知市障害者福祉センター

2023年2月4日（土）

10：00～12：00

はじめてのスマホ体験教室

障害のある方

募集期間：6月3日（金）～7月8日（金）

開催場所：高知市障害者福祉センター

2022年8月3日（水）

～8月26日（金）

水・金曜日

全8回 18：30～20：30

はじめての手話講座

（夜コース）

小学生以上で高知市在住

または在学、在勤の方

募集期間：7月4日（月）～26日（火）

開催場所：高知市障害者福祉センター

2022年8月27日（土）

13：00～16：00

作る！楽しむ！

プラモデル体験教室

小学生以上で

高知市在住の障害のある方

募集期間

障害のある方 7月4日（月）～8月19日（金）

※一般 8月1日（月）～8月19日（金）

※定員に空きがある場合のみ

開催場所：高知市障害者福祉センター

2022年10月15日（土）午前

10：00～12：30

自動車運転支援者講座

作業療法士等、自動車運転に

係る支援者の方

募集期間：9月5日（月）～9月30日（金）

開催場所：高知県運転免許センター

2022年10月15日（土）午後

13：30～16：30

障害のある方の運転教室

18歳以上で高知市在住の

また、本誌を複数欲しい方がいらっしゃいましたら、障害者福祉センターまでご連絡ください。

こうちノーマライゼーション

発行：高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

2022.3

vol. 47

〒780-0935 高知市旭町2丁目21-6

TEL：088-873-7717 FAX：088-873-6420

URL：<http://www.kochi-csw.or.jp/>

E-mail：asahi@kochi-csw.or.jp

アンケート用紙

障害者福祉センター宛 FAX 088-873-6420

こうちノーマライゼーション 読者アンケート

この度は、「こうちノーマライゼーション vol. 47」をご覧いただき、ありがとうございます。

今後のよりよい誌面づくりのために、皆様からのアンケートを募集いたします。以下の質問にお答えいただき、FAX または郵送にて障害者福祉センターまでご送付ください。

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で10名様にほおちょけんグッズをお送りいたします。なお、当選はグッズの発送をもって代えさせていただきます。

受付期間：令和4年12月末日

1 住所・氏名・連絡先を教えてください。（グッズをご希望でない方は未記入でも結構です）

住 所 〒

氏 名

連絡先 ☎ （ ） -

2 年齢を教えてください。

☐ 10歳未満 ☐ 10歳代 ☐ 20～30歳代 ☐ 40～50歳代 ☐ 60歳代以上

3 本誌をどのようにして知りましたか。

☐ 学校・職場 ☐ 市役所等の窓口 ☐ 病院・施設の窓口や待合所 ☐ その他

高知市在住で障害があり、スマートフォン
の操作に興味・関心のある方
募集期間：1月10日（火）～27日（金）
開催場所：高知市障害者福祉センター
2023年3月4日（土）
10：00～12：00

障害のある方を支援する
ボランティア体験教室
高知市在住で障害のある方の
援助活動に興味・関心のある方
募集期間：2月6日（月）～24日（金）
開催場所：高知市障害者福祉センター

※開催予定は変更になる場合があります。

編集後記

2年ぶりに本誌の編集を行うこととなりました。
内容は前号に引き続き、今回も防災をテーマとしました。自分もまずは家にあるマンガ2,000冊の本棚を固定することから始めようと思います。
突然ですが、ここで一句。

漫画本 買い足すたびに おかん無理（お冠）
（矢野田 三灯花）

障害者あるある4コマ漫画

大失敗

高知県立高知若草特別支援学校 中学部1年
山本 翔太郎・和田 歩生

慣れこそもの上手なれ

高知県立高知ろう学校 高等部2年・3年

インフォメーション

同封しておりますアンケートにご協力ください。お答えいただいた方の中から抽選で10名様に、高知市社協地域福祉推進キャラクター「ほおっちょけん」のオリジナルハンカチをお送りします。

※当選は発送をもってかえさせていただきます。

4 本号で興味深かった記事を教えてください。 (複数回答可)

☐表紙 ☐特集 障害のある方の防災 その2

☐防災コラム ☐年間行事カレンダー

☐ほんとうにあった障害者あるある4コマまんが

5 本誌へのご意見・ご感想、今後希望される特集・テーマ等がありましたら、教えてください。

※本アンケートでご記入いただいた内容は、障害者福祉センターの事業に関わる目的のみに使用し、他の目的には使用いたしません。

ご協力ありがとうございました

◆送付先◆

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

〒780-0935 高知市旭町2丁目21-6